

1. 給餌はなぜ必要か？

ペットや家畜の飼育や魚の養殖と養蜂との間には、生物飼育の共通点もあれば、違いもあります。養蜂は言わば「放牧」で、彼ら自身が食料を集め、餌を与える必要はありません。実際には人は彼らの食料を取り上げています。西洋ミツバチはおおむね半径 2~4km を行動半径としていますが、その範囲の蜜源植物の種類と量には限界があります。特に専門の養蜂家は限られた蜜源に対し多すぎる大群を飼育し、一ヶ所の花が終われば別の蜜源を求めて移動します。しかし、ふつう副業や趣味の養蜂家は巣箱の移動はしません。また専門養蜂家も移動経費の高騰や高齢化によって「定飼養蜂」に切り替える例が増えてきています。給餌は当面の群の飢えをしのぐだけの作業とは限りません。以下が給餌の主な目的です。

- (1) 冬を目前に十分な貯蜜を持たせるための給餌
- (2) 夏の蜜源枯渇期の対応
- (3) 早春に群の建勢のために

(1)と(2)の場合は巣に貯えさせることが目的で、シヨ糖 2 : 水 1 の濃厚糖液を与えます。

もっともセイタカアワダチソウが多い地域では秋に十分に冬を越せる貯蜜ができる所もあります。この花蜜はブドウ糖の比率が高く、貯蜜が結晶します。弱い群はこれを溶かして摂取する力が無く、貯蜜を残して餓死することがあり、これを採蜜した後にあらためて糖液を給餌する養蜂家もあります。

北海道北部など秋ソバで十分に貯蜜する地方もあります。沖縄ではフカノキが 12 月に流蜜して春まで貯蜜が保てますが、台風の直撃で花が咲かない年もあります。

(3)は巣に貯えさせるためではなく、訪花活動を刺激する目的の給餌で、「奨励給餌」と呼ばれます。

外勤蜂は花蜜採集蜂と花粉採集蜂に分かれますが、群の要求次第でその割合が変わります。奨励給餌には花蜜採集蜂を減らし、花粉採集蜂を増やす意図があります。花蜜の組成に近い「シヨ糖 1 : 水 1」の低い糖度の液が適当です。群を活発にさせると共に、採蜜を前に巣に貯えられないような濃度にするのです。

2. フォンダン(Fondant)を使う

過去 10 数年の間にヨーロッパで普及が進み、今では世界中に使用が広がっています。Fondant は仏語で、ケーキなどを飾るための練った半固形の粉糖のことを指す言葉です。シヨ糖と水だけの製品の他に、別の糖やグリセリンを混ぜたものもあります。食用のフォンダンには香り付けや保存のための添加物が入っていますが、ミツバチの飼料用にもビタミンやミネラルなどが添加された製品があります。

以下に示すように、フォンダンによる給餌は、多くの点で糖液給餌より優れています。

- (1) 給餌器が必要ない。蜂が増えて巣箱に給餌器を入れるスペースが無くなるという問題が解消する。
- (2) 使用後の給餌器の清掃・消毒をしなくてもよい。衛生的に給餌できる。器の保管の必要も無くなる。
- (3) 蜂が集まる中心部に最も近い場所に置けるため、弱群でも冬でも確実に摂取させることができる。
- (4) 給餌器内で溺死する事故が無くなる。露滴が落ちて糖液表面を覆う問題が起こらない。
- (5) 病気や寄生ダニ対策のためにサプリメントや薬剤、または花粉や代用花粉を混ぜて与えることができる。糖液と異なり摂り残しが無い。
- (6) 給餌直後に巣箱を動かすことができる。糖液給餌の場合のように摂取が終わるまで待つ必要がない。蜂場移動や花粉交配群の出荷に便利。